

みんなのいいところを

出しあって、もっと成長させて

いききたいと思っています

ネギに取り組みきっかけ

父親の跡を継ぐかたちで25歳のときに就農し、60歳までは兼業農家をしていました。

転機は、旧追分農協青年部の10代目部長を務めていたとき。当時、水稲以外の園芸作物も生産しているという動きがあり、それから約30年間ネギを栽培しています。5年前に面積を拡大し、今では2haの圃場で「夏扇パワー」を手掛け、横浜方面などに出荷しています。

栽培について

ネギは収穫してから根や葉を



これからの園芸振興

カットし、皮を取ってサイズごとに分け、定数で箱詰めをするなど、出荷前の作業に手間がかかります。寒くなってくると赤い斑点がつく「赤さび病」が発生するので、病害虫防除も徹底するなど、目は離せません。しかし、ネギは乾燥に強く、圃場の条件が整っていれば栽培に難しい品目ではありません。

先日、秋田市園芸振興センターの研修生が4日間研修に訪れ、なかには「自分もネギをやりたいです」と意欲的な子もいたことがうれしかったです。

自分の圃場も、ネギの栽培にやる気のある人に継いでほしいと思いますね。

今、追分地区では基盤整備が進められています。地区の各地で農業法人が立ち上がる予定で、自分もネギと枝豆の園芸メガ団地の設立に向けて、準備を進めています。昨年、管内産の枝豆の販売額が1億円を達成したように、ネギも1億円から2億円、3億円と成長させていきたいと思っています。農家ひとりではできないようなことも、施設を整えて、みんなで汗を流して協力しあえば、色々なことができるようになります。

組合員間やJAで、お互いにいいところを出しあって切磋琢磨し、ネギを育てていききたいと思っていますので、これからもご支援ご鞭撻のほどよろしく願います。

